

さん太
ギャラリー

構図工夫した力作披露

県学生写真連が展覧会



一瞬を切り取った大学生の写真展

県内大学の写真部でつくる県学生写真連盟の展覧会「写謝」が6日、岡山市北区柳町の山陽新聞社さん太ギャラリーで始まった。若い感性で被写体を選び、構図を工夫した力作を披露している。11

日まで。岡山大、県立大、就実大、ノートルダム清心女子大、くらしき作陽大の42人が、「フリー」(ワイド四つ切り)と「インスタ映え」(2L)に1点ずつ出品した。

フリーの「一休み」は、千光寺公園(尾道市)で街を見下ろしな

がらくつろぐ猫を間近で撮影。日本の「ウユニ塩湖」とされる父母ヶ浜(三豊市)で人をローアングルで捉えた「世界に一人だけの僕」は、人が海の上に立っているよう。「きょうも降る」は、振り返った犬の顔に雪片が降りかかった瞬間を切り取った。

インスタ映えでは、スイーツやペット、街並みを写したインパクト重視の作品が目を引く。

代表の就実大2年十川明さん(20)は「こだわりの詰まった力作ばかり。インスタの参考にもしてもらえれば」と話している。

午前10時～午後6時(最終日は午後5時)。入場無料。(有国由花)